

一、故郷の星——誰でもあるあの世の自分の家

人間には、誰でも自分の帰る処がある。家がある。

私は平成五年頃に、心の中から、

「自分の故郷に帰る準備をしなさい」

と、何だかおかしな事を言われたんですね。「準備しなさいって、もうそろくダメなのかなあ……」と思ったりしてみたりね。(笑)

私達には、どんな人でも故郷の星があるんですよ。

人間というものは、素晴らしいですね。

「あなたの帰る星がある。あなたはそこから出て来たんだよ」

「星は何処にあるのかなあ……」

——これは心の中に段階があるんですね。あの世には、魂の段階がある。

そう言うと、

「わたし、この辺かしら」

と、上の方に行きたいけれども(笑)、そんな事、思いなさんなということですよ。

「自分は下の方だと思いなさい。最低の処だと思いなさい」

と、私はよく言うんですよ。

その最低の中で一所懸命に生きていけば良いんです。——分かりますね。

高橋信次先生は、

「自分に負けてはいけないよ。自分の心に負けてしまうから、おかしな事になるんじゃないのですか。みんな結果を見てあ・た・ふ・た・し・て・い・る・ん・じ・や・な・い・で・す・か」と仰っていますね。

よく考えてご覧なさい。全部、自分で造った事ですから——。

それを人のせいに行したり、人に「どうにかしてくれ」と言うのはおかしいですね。そういう事を自分で分かるような心になってください——ということですよ。

